



学校便り 琢磨

令和5年度 第25号 R6.1.30 三豊市立詫間小学校

栄光を讃える

【第19回香川県小・中学校総合文化祭】

展覧会	小学生の部	硬筆	5年	詫間	萌奈	硬筆	4年	福岡	咲月
		立体	4年	林本	依叶	立体	4年	小森	紅

敬称は略します。おめでとうございます。昨日の全校集会で表彰状を伝達しました。

火災避難訓練



1月23日(火)。火災を想定した避難訓練を行いました。今回は、理科室から出火したということで、ハンカチやマスクで口や鼻を覆い、上履きのまま運動場に避難しました。校舎内は走らず、外に出てから走り、全員が避難して人員確認が終わるまでに4分はかかりませんでした。

火事や地震は、いつ、どこで発生するか分かりません。いざという時のための訓練です。子どもたちは、真剣に訓練に取り組んでいました。

第5回昼休み芸能・自慢大会

1月23日(火)の昼休みに、児童会主催の「第5回昼休み芸能・自慢大会」が開催されました。今回は、詫間幼稚園の年長の子どもたちも観に来てくれました。もちろん、保護者の皆様も応援に来てくださいました。縄跳び、ルービックキューブ、バレエ、折り紙、居合道、歌を子どもたちは発表してくれました。

今回は、教頭がギターと歌、教員が、漫才で出演しました。

次回、第6回大会は、2月27日(火)に予定しています。3月上旬が、最終回の第7回大会です。お楽しみに。



大谷選手のグローブ紹介

1月29日(月)。全校集会で「大谷選手からプレゼントしていただいたグローブ」と、「香川オリーブガイナズからいただいたボール」の紹介と、キャッチボールのデモンストレーションを行いました。

キャッチボールを見せてくれたのは、野球クラブに所属している6年生6人です。体育館の一番後ろから一番前の中で、ブーンと投げてバシッとグローブでキャッチする姿を見て、全校生は「すごい！」と大きな拍手をしていました。最後は、始球式のようなことも行いました。このグローブとボールは、今、各学級を回っています。

保護者の皆様には、2月7日(水)にご覧いただく場を設定する予定です。



わが家に金魚たちがいた風景

娘がまだ幼い頃の事ですので、今から20年以上前の話になるのでしょうか。わが家の台所に置いてあった水槽の中に、金魚たちが泳いでいました。この金魚たちは、夏祭りの「金魚すくい」で娘がすくったのでした。

夏休みのある夜、家族で夏祭りに行き出店を回っていると、娘が、「金魚すくいをしたい！」と言いだしたのです。その時、『もし、金魚をすくえてしまったら持って帰らなければいけない、持って帰ると水槽を用意して、ポンプとかエアータンとかの機械も買ってきて金魚を飼わなければいけない、えさもやらなければいけない、水槽の掃除もしなければいけない。きっと、自分が金魚係になってしまう。』と、その後のことが私の頭をぐるぐるとかけめぐりました。その一方で、『一度くらいは金魚すくいも経験させてやりたいなあ。まあ、まだ幼い娘なので、きっと金魚を上手くすくうことはできないだろう。残念だったねとぐさめて、金魚の代わりに綿菓子か何かを買ってやればそれで済むだろう。』と、自分の都合のいいように後のことを想像してもしました。

「おじょうちゃん、がんばってや！」と金魚すくいの店のおじさんが、ポイを1本娘に渡してくれました。私は、「がんばって、金魚をゲットしてよ！」と言いながら、心の中では『どうか、1匹もすくえませんか！』と願っていました。本当に残念(?)ながら、もう少しですくえそうになった時、ポイの紙は破れてしまい、持ち上がっていた金魚は、仲間たちが泳いでいる水槽の中にポチャンと音を立てて入っていきました。「あーあ。」と、とても悲しそうな娘の顔を見て、私は、ほっとしていましたが、お店のおじさんは、「おじょうちゃん、残念やったな。これは、おまけや。」と、もう1本、ポイを渡してくれたのです。「よかったね。今度こそ金魚をすくってよ。」と、おそらく顔を引きたげながら、『よけいなことをしてくれなくていいのに。』と思いながら、娘を応援しているふりをしたと思います。困ったことに、2回目になるとコツをつかんでしまい、何と娘は見事に金魚を1匹だけすくうことができたのです。おじさんは「よかったね、おじょうちゃん。袋に入れてあげるよ。」と言いながら、水槽の中の金魚を5、6匹すくって、その袋にいっしょに入れてくれたのです。まあ、こうなれば1匹でも6匹でも7匹でも同じことです。娘は大喜びで、金魚たちの入った袋を持って家に帰りました。そして、その日から、私のいきもの(金魚)係が始まりました。

しばらく経った夏の晴れた日。妻と娘が出かけている間に、私は、金魚たちを小さな「おけ」に移し、ベランダの日陰の所に置いて、水槽の掃除を始めました。あまり大きな水槽ではなかったのですが、思い切って、隅々まで掃除をしたため1時間以上かかってしまいました。そして、カルキ抜きをした透き通った冷たい水を入れてポンプやろ過の機械をセットし、金魚を水槽に戻そうとした時には、作業を始めて2時間は経過していました。『きれいになったぞ。金魚さんたちも気持ちよく泳げるぞ。』と、いつの間にか、すっかり「いきもの係」としての自覚を高めた私は、ベランダのおけを見てがく然としました。日陰だった場所は、いつの間にか太陽がガンガン照りつける日なたになっていて、金魚たちは、全部お腹を上にして浮いていたのです。「しまった！金魚たちが死んでしまう！」と、私は、急いで金魚たちをお湯のようになってしまったおけから水槽に移し、祈るように様子を見つめていました。金魚たちは、まだ上を向いたままでした。『金魚たちが死んでしまった、娘に何と言おう。』と、急いでいると、急に、金魚が一匹、一匹とひっくり返り、やがて全ての金魚が元気に泳ぎ始めたのです。何とか間にあいました。これこそ、金魚の命を救った「金魚すくいだ！」と、その時は、決して思いませんでしたが、とにかくほっとしました。そして、いきものを飼うということは、そのいきものたちの命を自分が左右してしまうことになるのだと心から思い知らされたのです。

金魚たちは、それから数年間、わが家で暮らし(私のいきもの係はしばらく続き)、その後、近くの池に放しました。それから、娘が高校に入学するまで、わが家でいきものを飼うことはありませんでした。マンチカンの短足、キャリコ(三毛)の女の子の猫「なお」が、わが家に来るまでは…。

あの金魚たちは、その後どうなったのかは分かりません。水槽の中とは違って自由にはなりませんが、厳しい自然の中に放たれたので、他の大きな生き物に食べられてしまったかもしれません。いや、奇跡の復活を果たした金魚たちなので、あれからも生き延びたのかも知れません。